

## 108) 砂時計

花びらはうす紅の 砂のごとくに  
音もなく絶え間なく 大地を包む  
樹の下は砂時計の 底のごとくに  
永遠に帰らざる 時を刻んだ

喜びも悲しみも 花にうずもれ  
あなただけ愛した日 遠ざかってく  
花びらは過ぎし日の いとなみを  
思い出にかえてゆく 砂時計

降りしきる絹の糸 人の心を  
憂うつな牢獄へ 閉じこめてゆく  
雨音は砂時計の 底のごとくに  
永遠に帰らざる 時を刻んだ

いつの世も人生の 幸運不運  
水たまりに映しこみ 時は流れる  
絹糸は過ぎし日の いとなみを  
思い出にかえてゆく 砂時計

散りしきる銀杏の葉 黄蝶のように  
くれなずむ空を背に 舞いおりてくる  
樹の下は砂時計の 底のごとくに  
永遠に帰らざる 時を刻んだ

人生のさまざまな ドラマを包み  
時はゆき歳月は くれなんとする  
樹の下は過ぎし日の 足跡を  
思い出にかえてゆく 砂時計